

為替週間展望 = ドル円は緩やかに上昇基調を継続か

[1 2 月 3 0 日からの1 週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		12 月 23 日 ~ 12 月 27 日			
	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	156.14	158.08(26)	156.14(23)	157.75	+1.44
ユーロ・ドル	1.0423	1.0446(23)	1.0384(23)	1.0411	-0.0019

国内株・金利 / 米国株・金利		終 値		前週末比	
	終 値	前週末比	終 値	前週末比	
日経平均株価	40,281.16	+1579.26	日本10年債利回り	1.110	+0.046
ダウ平均株価	43,325.80	+983.56	米10年債利回り	4.583	+0.061

< 来週の主要経済統計等 >

- 30日 スイス12月KOF先行指数
米12月シカゴ購買部協会景気指数
- 31日 中国12月製造業PMI
米10月住宅価格指数、米10月S&Pケースシラー住宅価格指数
- 2日 中国12月財新製造業PMI
米新規失業保険申請件数
米11月建設支出
- 3日 独12月雇用統計
米12月ISM製造業景況指数
米7月中古住宅販売件数

【前回のレビュー】米国での物価の高止まりや利下げペース鈍化は、米長期金利の上昇やドル高につながるとみられる。一方で、日銀は植田総裁の記者会見では、次回利上げに関して明言せず、優柔不断で煮え切らない態度を示したことで円売りにつながった。こうした中、ドル円はテクニカル的な過熱感は警戒されるものの、上昇基調が継続するとした。

【クリスマス休暇入りでドル円は底堅いが小幅な値動き】

12月20日に加藤財務相や三村財務官が「為替の動きを憂慮している。行き過ぎた動きには適切な対応をとる」と発言したことで、ドル円は157円台後半から155円台後半まで調整の動きを見せた。

12月23日の週はクリスマス休暇となり、落ち着いた動きが続いた。ドル円はもみ合いながらも緩やかに上昇を見せた。23日のドル円は、前週末20日に調整した反動から上昇して、156円台前半から157円台前半まで上昇を見せた。24日はクリスマスイブということもあり、英国や米国市場は短縮取引となり、動意に乏しかった。25日は欧米市場やアジアの国でもクリスマスで休場となり、小幅な値動きに終始した。

日銀の植田総裁は、25日の講演で、「国内経済の目先の大きなポイントは、春季労使交渉に向けた動き」「米国の次期政権の経済政策を巡る不確実性は大きい状況」などと述べた。日銀会合の記者会見と比べて新鮮味を欠いたことや円安けん制発言などが出なかったことから、小幅ながら円売りの反応を見せた。

ドル円は26日にも堅調な動きを見せており、休場明けのNY市場では158円近辺まで上昇した。急速な円安進行への警戒感から、27日には伸び悩みを見せている。

【年末年始は3日の米ISM製造業景況指数に注目】

年末年始は目立った経済指標も少なめで、落ち着いた動きになることが期待される。米経済指標の発表は少なめで、3日の米12月ISM製造業景況指数が注目される。今回の予想は48.3、前回(12月3日発表の11月分)は48.4となり、事前予想や前回値を上回った。今回も予想から上振れすると、ドル買いに傾きやすいとみられる。逆に下振れすると、ドルの上値を抑えそうだ。

2025年に米連邦準備制度理事会(FRB)の利下げペースが鈍化すると観測や日銀の追加利上げ先送り観測などから、ドル円は上昇基調で推移するとみられる。一段の円安局面では日本の財務省や日銀による介入警戒感が高まり、急速な円安進行は抑えられるとみられる。そうした中、底堅い推移が続いて、ドル円は緩やかに上昇を続けると思われる。ドル円の目先の予想レンジは、155.00~162.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、30日に米12月シカゴ購買部協会景気指数、31日に米10月住宅価格指数、米10月S&Pケースシラー住宅価格指数、2日に米新規失業保険申請件数、米11月建設支出、3日に米12月ISM製造業景況指数などがある。

【ユーロドルは横ばい圏から上値重く推移か】

クリスマス休暇ということもあり、23日以降のユーロドルは1.0400ドルを挟んでの振幅となり、方向性的見えにくい展開となった。ユーロ圏は景気の鈍化観測やドイツやフランスの政治的混乱により、上値を抑えられそうだ。ユーロドルは戻りの動きは限定的とみられ、上値の重い展開になるとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0250~1.0500ドル。

ポンドドルは上値の重い展開を見せている。英国ではインフレ率が高止まりしており、利下げはまだ先との見方が広がりつつあった。19日の英金融政策委員会(MPC)では政策金利は据え置きとなり、票割れは据え置き6対利下げ3となった。想定よりも弱気に傾いたことや英第3四半期GDP確報値が低調な結果となっており、売りに押されやすくとみられる。こうした中、ポンドドルは軟調な推移となりそうだ。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2300~1.2700ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、30日にスイス12月KOF先行指数、31日に中国12月製造業PMI、2日に中国12月財新製造業PMI、3日に独12月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。